

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490500107		
法人名	株式会社 やよい会		
事業所名	グループホーム みどりの郷 こんね		
所在地	大分県佐伯市弥生大字床木3番地1		
自己評価作成日	平成 24年1月31日	評価結果市町村受理日	平成24年5月24日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号
訪問調査日	平成24年2月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山や田畑に囲まれ、季節による山の色の変化や、5月には田植え、10月には稲刈りなどが施設の窓より眺める事が出来、季節を感じる事が出来ます。平成19年10月に開所し、5年目になりますが、ゆっくりとした時間の中で、ひとりひとりの思いを尊重するという理念をもとに、入居者様の思いに寄り添いながら、家族のようなケアを行い、穏やかで楽しい生活が送れるように日々お手伝いをさせていただいています。人生の大先輩である入居者様と一緒に過ごす中で、勉強をさせていただくことも多く、スタッフ全員で日々努力しています。施設の庭には散歩コースがあります。庭は歩きやすく柔らかいコンクリートで出来ており、様々な種類の木や、季節の草花があり、庭に出ると季節を感じる事ができます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 建物のどの場所からも周囲の自然に触れられるので、季節を感じる事ができ、暖かな、のんびりとした時間を共有できている。
2. 地域の防災の行事に参加したり、また、事業所の行事に参加してもらうことを通して、地域住民との日常的な交流ができています。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は目の届く場所に掲示し、実践に努めているが、業務に追われ実践に繋がっていない場合もある	理念を掲げ、実践に努めているが、職員全員での理解と共有が十分ではなく、実践に活かすまでには至っていない。	理念について、折に触れ話し合い、意識づけを行うことで、理念を職員全員で理解、共有するようにし、具体化して、日常の中で実践につなげていくことが期待される。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事や清掃活動に参加したり、施設の行事に参加頂いたりしているも、日常的な交流は少ない	自治会に加入しており、地域の防災訓練や清掃活動、また、お祭りなどには、利用者とともに参加している。前庭で行う夏祭りや敬老会などは、地域に呼びかけ参加していただいたり、子供達が遊びに来たり、野菜の差し入れがあるなど、日常的な交流ができています。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談を受ける事はあるものの、十分に実施できていない		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では入居者様の生活の様子を、写真を使って伝えたり、外部評価の結果やご家族におこなったアンケートの結果についての説明などをおこなった。ただし、会議で出た意見を活かしていない部分もある	定期的開催し、事業所の取り組み、家族アンケートや外部評価の報告を行うとともに、活発な意見交換がなされ、出された意見は運営に活かされている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には地域包括支援センターの職に参加していただき、情報の交換を行っている。地域包括支援センターの相談員の方より入所の相談を受け、入所対応となった入居者様が数名居る	市の担当者とは、利用者の緊急受け入れや、相談などが、気軽にできている。情報交換を行うなど、お互いに協力関係ができています。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	センサーの設置などで施錠をしない支援を目指している。ただし、安全上必要と思われる入居者様にベッド柵の使用をおこなっている	身体拘束排除マニュアルを用いて、職員間で勉強会を実施している。また、一度転倒のあった利用者について、本人の希望に合わせ検討を重ね、立ち上がり補助目的で、L字型のベッド柵を導入するなど、拘束のないケアを実践している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉の暴力には十分注意し、支援を行っている。また勉強会などの回数不足があるので、今後も努力していきたい		

事業者名: グループホームみどりの郷こんね

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会を作れていない。今後全職員が知識を得た上で、必要になった場合、スムーズに活用できるようにしていく		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には説明を十分に行い、疑問が無いかを確認し、承諾を得たうえで署名と捺印を頂いている ただし、重度化になった場合の説明が不足しているため、今後充実させたい		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族へのアンケートを年に一回実施している また、結果を各家庭へ郵送したり、運営推進会議で報告している	家族アンケートを年1回実施し、結果は、家族及び運営推進会議に公表している。また、面会時は話しやすい雰囲気づくりに努め、できるだけ意見を引き出せるように働きかけている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度カンファレンスを実施し、意見の集約や改善策を話している 毎回では無いが本社の専務が参加する事もある 実際に反映される場合もあるが、全てではない	月に1度、カンファレンスにて意見や提案を出し合っている。事業所内で改善できない事項は、本社職員にも出席をしてもらい検討をし、運営に反映させている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格習得の支援などは行っているが、不足しているのが現状である		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内の勉強会や研修の参加など行っているも、十分に出来てはいない		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームとのネットワーク作りや相互訪問はまだまだ出来ていない		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所前には面接、相談に行き、要望など話を聞き、状態の把握をしている。また、体験入所の受け入れも行き、安心出来るよう努めている</p> <p>入所後もなるべく本人の希望に添えるよう支援している</p>			
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入所前にお会いし、要望を聞いている。また随時見学を受け入れ、入所前に施設の雰囲気を感じて貰えるようにしている</p> <p>また、ご家族やご本人様の要望や希望など情報収集し、サービスを提供できるよう努めている</p>			
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入所の相談があった段階で、本人や家族の方、相談員の方などから情報を収集し、アセスメントを通じて入所の検討を行っている</p>			
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>生活のなかで入居者様の出来ることをして頂きながら、感謝の気持ちを伝えている。</p> <p>また、生活の知恵を教えていただいたり、人生相談をするなど良好な関係が築けている</p>			
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>面会時や3ヶ月に一度手紙を送る時に、入居者様の様子を伝えている。また、職員も家族の一員として接することが出来るよう努めている</p>			
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>友人の方の面会があったり、家族との外出や外泊も行っているが、施設側よりのアプローチができておらず、入居者様も限られている。</p>	<p>受診の帰りに自宅訪問をしたり、地区の公民館に行くなどの支援をしているが、利用者個々の生活歴や、馴染みの関係などの把握が十分ではないため、継続的な支援につながっていない。</p>	<p>個々の馴染みの場や人など、入居前と入居後の数年間での情報を記録して、その積み重ねを職員全員で共有し、支援につなげていくことが期待される。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>職員が各利用者様の状況や関係を把握し、良好な関係を築けるよう調整役になっている</p>			

事業者名: グループホームみどりの郷こね

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方のお見舞いや葬儀の参列など行っているが、完全には対応しきれていないのが現状である		
、その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で入居者様の会話や表情の変化などより状況の把握を行い、希望を達成出来るよう支援している また、意思疎通が困難な場合は家族に意見を求めている	日々の関わりの中での会話や、表情の変化などから、思いや意向の把握に努めている。身体的な情報については詳細に記録されているが、生活史についての情報が少ない。	今までの生活や、その人らしさ、心の声を聞いて、職員全員が見ることができ共有できるような事業所独自のフェースシートを作成することで、思いや意向を把握し、ケアに反映させていくことが望まれる。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や入居者様との会話の中で情報収集し記録を行い、スタッフで共有している その情報を土台とし、今後の生活に役立てている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録などを活用し、スタッフ同士の申し送りや意見交換も積極的に行っている		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーが中心となり、ご家族や、各担当職員と話し合いを行い、介護計画の作成を行っている また、月に一度のカンファレンスにて問題解決に取り組んでいる	計画作成は、ケアマネージャーが、本人及び家族の意向を把握し、担当職員と話し合い、作成している。モニタリングも、月1回ケアマネージャーが実施しているが、全職員が計画作成に関わっていないため、情報共有が十分ではない。	計画作成時からモニタリングまで、職員や家族、本人の意向が反映されるよう、全職員でプラン作成に関わるとともに、全職員がプランを日々の記録に反映していくことが期待される。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録をし、共有化している カンファレンスやケアプランの見直しの際にも活用されている しかし、活用できていない部分もある		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急の申し込みや体験入所などで対応している また入居者様の個々の要望には物品の購入などは対応できているが、大きな要望に対応できるような柔軟性がもてていない		

事業者名: グループホームみどりの郷こね

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行われた救急救命の訓練と消火栓を使用した消防訓練に参加し、一緒に訓練した		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様やご家族の希望を重視し、かかりつけ医の変更はせずに対応している また、当施設のかかりつけ医とも連携し、定期受診や往診などしてもらっている	本人及び家族の希望を重視した、馴染みのかかりつけ医になっており、受診時は、職員が同行している。状態により往診もあり、かかりつけ医及び家族との連携がとれている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置し、24時間連絡を取れる体制にある また、入居者様も気軽に相談している		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中はお見舞いに行ったり、病院と連絡をとりながら、現状の把握を行っている また、退院前はソーシャルワーカーにも入院中の情報を聞くなど退院後の施設対応がスムーズにいくよう努めている		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に対しての希望を入居者様、ご家族に聞いて書類を作成している その際には当施設で出来ることを説明している 上記のように取り組んでいるが、家族との意思の統一が遅くなる場合がある	終末期及び看取りの指針に基づき、家族との話し合いを行い、意思統一を図っている。状態の変化に応じて、その都度、家族、医師、職員を交えて話し合いを行い、方針の共有をしている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署にて救急救命士の方より救急救命について学んだ また、年間行事として定期的に行っている		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアル作成や定期的な訓練を実施している 非常食の備蓄を行い、備えているが、まだ地域との協力や訓練が十分でない部分がある	併設の施設との合同訓練や、地域の防災訓練に参加している。また、事業所における災害時のマニュアルを作成し、避難訓練や緊急通報訓練を実施し、地域との協力体制も構築されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様についてはプライバシーの尊重、自尊心を傷つけないよう十分配慮し、人生の先輩として接しているが、職員同士の注意が不十分であり、自分の発言が見えていない部分がある 記録物に関しては扉のある棚を使用するなどの配慮をしている	職員で話し合いを行い、自尊心、恥辱心に配慮した優しい言葉かけや対応を心がけている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の話を傾聴しながら、本人の希望を叶えられるよう努力している また意志決定が行えるような声かけもしている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れに沿って支援しているが、時間を区切ったような支援はしていない ただし、全てに対応できておらず、入居者様の希望にそえていない部分もある		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類については自己決定を促している また、髪やひげそりなど自力で出来ない方に対しては職員が対応している 理美容については家族の協力や訪問美容師により散髪を行っている		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニュー作成の際、入居者様の意見を聞いて作成している 準備に関しては一部の入居者様が時折参加している程度だが、片付けに関しては一緒に行っている	食事の準備や片付けなど、利用者のできることは一緒に行い、三食ともホーム内で作っている。しかし、食事時の利用者へ寄り添い、介助や見守りを行う中での楽しい雰囲気づくりが十分でない。	食事を楽しむ雰囲気づくりについて、職員全員で話し合い、利用者主体の支援を期待したい。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量、水分量をチェックを行っている また、食べやすい食事形態をとったり、嫌いな食材は違う物へ変更するなど摂取量の維持にも努めている		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食は出来ていないが、1日に一度は口腔ケアや義歯の洗浄を行っている また、施設内講習で口腔ケアについて学んだ		

事業者名: グループホームみどりの郷こね

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、状態の把握に努めている また、排泄チェック表を活用し、時間を見て声かけ誘導をするなどトイレでの排泄を促している	排泄チェック表を活用し、声かけ、誘導を行うことで、日中はオムツを使わず、個々の状況に合わせて自立支援を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量のチェックや体操を毎日おこなうなどしている また、内服での調整も行っている		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間を決めて行っているが、本人の希望により柔軟に対応している また入浴剤の使用などの環境を楽しめる配慮も行っている	基本の入浴時間を決めてはいるが、利用者の希望やタイミングに応じて、柔軟に対応している。拒否する人には、声かけや時間をずらすなどの工夫をしており、時には清拭を行い保清に努めている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は決まっているが本人の好きな時間に就寝できるよう支援している		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	理解のある職員も多いが、一部不安のある職員が居るのも事実 ファイルを作成し、処方箋の整理や看護師への相談など随時行っている		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の希望に沿った役割を持ってもらっているが全入居様が出来ているとは至っていない また時間のあるときは計算問題や塗り絵、折り紙など楽しんでもらっているが、時間の無い場合は不十分である		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設の庭の散歩などは出来ているが、希望通りの外出支援には至っていない	庭に散歩道があり、午後からは、車いす利用の人も一緒に散歩するように支援をしている。普段行けないような場所は、受診の帰りなどを利用したりと、個々の希望に沿えるような外出支援を行っている。	

事業者名: グループホームみどりの郷こね

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望を聞き、スタッフが購入に赴いているのが現状で、本人が金銭を持つことは無い		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者の家族へ電話の取り次ぎや、連絡を行っているが、状態により出来ていない部分もある		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	湿度・温度計を設置し管理している 光や音に関しては入居者様の意見を参考に調整している また、季節感のある飾り付けに努めている	天井からの自然採光がやわらかく、寄り添う空間や、のんびりと外の景色を眺めながら、ひなたぼっこができる。前庭の散歩道や周囲から、近隣の人の声かけがあったりと、オープンな設えになっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内数カ所にソファや椅子など設置し、気のあった入居者様同士で会話したり、一人でゆっくり過ごせるよう支援している		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や使い慣れた布団を使うなど、安心して過ごせるような部屋作りを行っている また、今まで使っていたぬいぐるみや小物の持ち込みも行っている	持ち込まれた物や装飾などにも、本人や家族の思いがこめられ、それぞれが、个性的で居心地の良さに配慮した居室になっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各部屋に色を付けたり、自室のドアに名前を貼るなど理解しやすいよう工夫している 施設内は手すりを設置し移動しやすいようになっているが、車椅子や歩行器の場合、手狭になるなど十分でない所もある		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490500107		
法人名	株式会社 やよい会		
事業所名	グループホーム みどりの郷 こんね 2ユニット		
所在地	大分県佐伯市弥生大字床木3番地1		
自己評価作成日	平成 24年1月31日	評価結果市町村受理日	平成24年5月24日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成24年2月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山や田畑に囲まれ、季節による山の色の変化や、5月には田植え、10月には稲刈りなどが施設の窓より眺める事が出来、季節を感じる事が出来ます。平成19年10月に開所し、5年目になりますが、ゆっくりとした時間の中で、ひとりひとりの思いを尊重するという理念をもとに、入居者様の思いに寄り添いながら、家族のようなケアを行い、穏やかに楽しい生活が送れるように日々お手伝いをさせていただいています。人生の大先輩である入居者様と一緒に過ごす中で、勉強をさせていただくことも多く、スタッフ全員で日々努力しています。
施設の庭には散歩コースがあります。庭は歩きやすく柔らかいコンクリートで出来ており、様々な種類の木や、季節の草花があり、庭に出ると季節を感じる事ができます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【グループホーム みどりの郷こんね 1ユニット目に記載】

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印		項目		取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらい				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くいない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 職員の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 職員の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 利用者の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 利用者の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族等の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族等の1/3くらい	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらい					
		3. 利用者の1/3くらい					
		4. ほとんどいない					

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている</p>	<p>理念は目の届く場所に掲示し、実践に努めているが、業務に追われ実践に繋がっていない場合もある</p>		
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している</p>	<p>地域の行事や清掃活動に参加したり、施設の行事に参加頂いたりしているも、日常的な交流は少ない</p>		
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>相談を受ける事はあるものの、十分に実施できていない</p>	/	/
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議では入居者様の生活の様子を、写真を使って伝えたり、外部評価の結果やご家族におこなったアンケートの結果についての説明などをおこなった。ただし、会議で出た意見を活かされていない部分もある</p>		
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議には地域包括支援センターの職に参加していただき、情報の交換を行っている。地域包括支援センターの相談員の方より入所の相談を受け、入所対応となった入居者様が数名居る</p>		
6	(5)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>センサーの設置などで施錠をしない支援を目指している。ただし、安全上必要と思われる入居者様にベッド柵の使用をおこなっている</p>		
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>言葉の暴力には十分注意し、支援を行っている。まだ勉強会などの回数不足があるので、今後も努力していきたい</p>	/	/

事業者名: グループホームみどりの郷こね2ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会を作れていない。今後全職員が知識を得た上で、必要になった場合、スムーズに活用できるようにしていく		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には説明を十分に行い、疑問が無いかを確認し、承諾を得たうえで署名と捺印を頂いている ただし、重度化になった場合の説明が不足しているため、今後充実させたい		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族へのアンケートを年に一回実施している また、結果を各家庭へ郵送したり、運営推進会議で報告している		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度カンファレンスを実施し、意見の集約や改善策を話している 毎回では無いが本社の専務が参加する事もある 実際に反映される場合もあるが、全てではない		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格習得の支援などは行っているが、不足しているのが現状である		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内の勉強会や研修の参加など行っているも、十分に出来てはいない		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームとのネットワーク作りや相互訪問はまだまだ出来ていない		

事業者名: グループホームみどりの郷こね2ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には面接、相談に行き、要望など話を聞き、状態の把握をしている。また、体験入所の受け入れも行い、安心出来るよう努めている入所後もなるべく本人の希望に添えるよう支援している		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にお会いし、要望を聞いている。また随時見学を受け入れ、入所前に施設の雰囲気を感じて貰えるようにしている また、ご家族やご本人様の要望や希望など情報収集し、サービスを提供できるよう努めている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所の相談があった段階で、本人や家族の方、相談員の方などから情報を収集し、アセスメントを通じて入所の検討を行っている		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活のなかで入居者様の出来ることをして頂きながら、感謝の気持ちを伝えている。 また、生活の知恵を教えていただいたり、人生相談をするなど良好な関係が築けている		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や3ヶ月に一度手紙を送る時に、入居者様の様子を伝えている。また、職員も家族の一員として接することが出来るよう努めている		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人の方の面会があったり、家族との外出や外泊も行っているが、施設側よりのアプローチができておらず、入居者様も限られている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が各利用者様の状況や関係を把握し、良好な関係を築けるよう調整役になっている		

事業者名: グループホームみどりの郷こね2ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方のお見舞いや葬儀の参列など行っているが、完全には対応しきれていないのが現状である		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で入居者様の会話や表情の変化などより状況の把握を行い、希望を達成出来るよう支援している また、意思疎通が困難な場合は家族に意見を求めている		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や入居者様との会話の中で情報収集し記録を行い、スタッフで共有している その情報を土台とし、今後の生活に役立てている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録などを活用し、スタッフ同士の申し送りや意見交換も積極的に行っている		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーが中心となり、ご家族や、各担当職員と話し合いを行い、介護計画の作成を行っている また、月に一度のカンファレンスにて問題解決に取り組んでいる		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録をし、共有化している カンファレンスやケアプランの見直しの際にも活用されている しかし、活用できていない部分もある		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急の申し込みや体験入所などで対応している また入居者様の個々の要望には物品の購入などは対応できているが、大きな要望に対応できるような柔軟性がもてていない		

事業者名: グループホームみどりの郷こね2ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行われた救急救命の訓練と消火栓を使用した消防訓練に参加し、一緒に訓練した		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様やご家族の希望を重視し、かかりつけ医の変更はせずに対応している また、当施設のかかりつけ医とも連携し、定期受診や往診などしてもらっている		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置し、24時間連絡を取れる体制にある また、入居者様も気軽に相談している		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中はお見舞いに行ったり、病院と連絡をとりながら、現状の把握を行っている また、退院前はソーシャルワーカーにも入院中の情報を聞くなど退院後の施設対応がスムーズにいこう努めている		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に対する希望を入居者様、ご家族に聞いて書類を作成している その際には当施設で出来ることを説明している 上記のように取り組んでいるが、家族との意思の統一が遅くなる場合がある		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署にて救急救命士の方より救急救命について学んだ また、年間行事として定期的に行っている		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアル作成や定期的な訓練を実施している 非常食の備蓄を行い、備えているが、まだ地域との協力や訓練が十分でない部分がある		

事業者名: グループホームみどりの郷こね2ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様についてはプライバシーの尊重、自尊心を傷つけないよう十分配慮し、人生の先輩として接しているが、職員同士の注意が不十分であり、自分の発言が見えていない部分がある 記録物に関しては扉のある棚を使用するなどの配慮をしている		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の話を傾聴しながら、本人の希望を叶えられるよう努力している また意志決定が行えるような声かけもしている		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れに沿って支援しているが、時間を区切ったような支援はしていない ただし、全てに対応できておらず、入居者様の希望にそえていない部分もある		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類については自己決定を促している また、髪やひげそりなど自力で出来ない方に対しては職員が対応している 理美容については家族の協力や訪問美容師により散髪を行っている		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニュー作成の際、入居者様の意見を聞いて作成している 準備に関しては一部の入居者様が時折参加している程度だが、片付けに関しては一緒に行えている		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量、水分量をチェックを行っている また、食べやすい食事形態をとったり、嫌いな食材は違う物へ変更するなど摂取量の維持にも努めている		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食は出来ていないが、1日に一度は口腔ケアや義歯の洗浄を行っている また、施設内講習で口腔ケアについて学んだ		

事業者名: グループホームみどりの郷こね2ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、状態の把握に努めている。また、排泄チェック表を活用し、時間を見て声かけ誘導をするなどトイレでの排泄を促している		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量のチェックや体操を毎日おこなうなどしている。また、内服での調整も行っている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間を決めて行っているが、本人の希望により柔軟に対応している。また入浴剤の使用などの環境を楽しめる配慮も行っている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は決まっているが本人の好きな時間に就寝できるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	理解のある職員も多いが、一部不安のある職員が居るのも事実。ファイルを作成し、処方箋の整理や看護師への相談など随時行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の希望に沿った役割を持ってもらっているが全入居者様が出来ているとは至っていない。また時間のあるときは計算問題や塗り絵、折り紙など楽しんでもらっているが、時間の無い場合は不十分である。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設の庭の散歩などは出来ているが、希望通りの外出支援には至っていない。		

事業者名: グループホームみどりの郷こね2ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>希望を聞き、スタッフが購入に赴いているのが現状で、本人が金銭を持つことは無い。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>希望者の家族へ電話の取り次ぎや、連絡を行っているが、状態により出来ていない部分もある。</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>湿度・温度計を設置し管理している。光や音に関しては入居者様の意見を参考に調整している。また、季節感のある飾り付けに努めている。</p>		
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>ホール内数カ所にソファや椅子など設置し、気のあった入居者様同士で会話したり、一人でゆっくり過ごせるよう支援している。</p>		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家族の写真や使い慣れた布団を使うなど、安心して過ごせるような部屋作りを行っている。また、今まで使っていたぬいぐるみや小物の持ち込みも行っている。</p>		
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>各部屋に色を付けたり、自室のドアに名前を貼るなど理解しやすいよう工夫している。施設内は手すりを設置し移動しやすいようになっているが、車椅子や歩行器の場合、手狭になるなど十分でない所もある。</p>		